

ふりがな

おおすぎ たかし

氏名

大杉 高司

1. 学歴

- 1988年3月 早稲田大学法学部卒業
1989年4月 大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻博士前期課程入学
1992年3月 同課程修了
1992年4月 大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻博士後期課程進学
1993年10月 同課程休学
1993年10月 トリニダード・トバゴ国ウエストインディーズ大学センタガスティン校特別許可生
(95年9月まで)
1996年10月 大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻博士後期課程復学
1997年3月 同課程退学

2. 職歴・研究歴

- 1997年4月 京都文教大学人間学部文化人類学科助手 (2000年3月まで)
1999年10月 京都文教大学人間学研究所研究員 (2000年3月まで)
2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科助教授 (2007年より准教授。2008年3月まで)
2004年9月 ハーバード大学イエンチェン・インスティテュート客員研究員 (2005年8月まで)

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

人類学、人類学概論、社会人類学総論、社会人類学特論、民族誌、人類学方法論、周辺社会の諸問題、現代人類学特論、エスノグラフィ、周辺状況の諸問題、社会科学の基礎／方法

(b) 大学院

社会人類学、民族誌論、比較民族誌研究、周辺状況の諸問題

(B) ゼミナール

学部3年ゼミナール、学部4年ゼミナール、学部導入ゼミナール、大学院演習

4. 主な研究テーマ

キューバ、トリニダードなどのカリブ海地域、近年はエクアドルをはじめとするアンデス諸国をフィールドとして、人類学的研究を進めている。研究のキーワードは、エコロジー、持続可能性、存在論、計量化、ネットワーク、アイロニー、フェティシズム、クレオールなど。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ラテンアメリカ文化事典編集委員会編『ラテンアメリカ文化事典』(共著)、丸善書店、2021年(分担部分:「クレオール/クリオージョ」)
- マリリン・ストラザーン著、『部分的つながり』(大杉高司監訳)、水声社、2015年(分担部分:「『部分的つながり』というサイボーグ」、p.333-349頁)
- 大杉高司編『脱/文脈化を思考する』一橋社会科学第七巻別冊、一橋大学大学院社会学研究科、2015年、全244頁
- 上杉富之・及川祥平編著『共振する世界の対象化に向けて—グローバル研究の理論と実践—』、成城大学民俗学研究所、2011年(担当部分:「総合討論」、181-186頁)
- 田沼幸子、石塚道子、富山一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』(共著)、人文書院、2007年(分担部分:「〈アイロニー〉の翻訳—ポスト・ユートピアが人類学に教えること」 309-340頁)
- 田沼幸子編『スト・ユートピアの民族誌—トランスナショナリティ研究5』(共著)、大阪大学、2006年(分担部分:「映画『Intervista』と人類学」131-135頁)
- 小松和彦ほか編『文化人類学文献辞典』、弘文堂、2004年(分担部分:「無為のクレオール」p.359)
- 杉浦勉ほか編『シンコペーション ラティノ/カリビアン文化実践』(共著)、新宿書房、2003年(担当部分:「神々の〈物質化〉—あるいはキューバのマルクス」 116-137頁)
- 松田素二ほか編『エスノグラフィ・ガイドブック』、嵯峨野書院、2002年(分担部分:「『ラテンアメリカン・エスノグラフィティ』」、22-25頁)
- 綾部恒彦ほか編『文化人類学最新術語100』、弘文堂、2002年、(分担部分:「クレオール」、52-53頁)
- 杉島敬志編『人類学的実践の再構築』(共著)世界思想社、2001(分担部分:「非同一性による共同性へ/において」271-296頁)
- 大杉高司『無為のクレオール』(単著)、岩波書店、1999年(全237頁)
- 梶原景昭編著『異文化の共存—岩波文化人類学講座』(共著)、岩波書店、1997年(担当部分:「黒い処女の魅惑」29-57頁)

(b) 論文

- 大杉高司「『ともに生き残る』術をマツタケから学び取る—制度化されえない多様な潜在的コモンズのありようを予期させる、薄明りの希望:アナ・チン『マツタケ』、『図書新聞』、2019年12月、2頁
- 大杉高司「『キューバ革命の緑化』とマリノフスキーの子供たち:持続可能エコロジー農業の実験から」、大杉高司編『脱/文脈化を思考する』(『一橋社会科学』第7巻別冊)、2015年、215-242頁
- 大杉高司「序論 『脱/文脈化』を思考する」、大杉高司編『脱/文脈化を思考する』(『一橋社会科学』第7巻別冊)、2015年、3-15頁
- *大杉高司「キューバ革命の「近代」—「恥ずかしがらない」唯物論からの眺め」、『国立民族学博物館研究報告』第35巻第2号、2010年、299-335頁、
- *大杉高司「ポストコロナ論争は人類学にとって自殺行為だった:提起再論」、『くにたち人類学研究』通巻3号、2008年、101-111頁
- 大杉高司「文化人類学から宗教をみる—オカルト的想像力と近代:コメント」、『宗教と社会』、2005年、246頁-249頁
- 大杉高司「文化的アイデンティティの行方」、『HQ』、4号、2004年、54頁
- *大杉高司「ある不完全性の歴史:20世紀キューバにおける精神と物質の時間」、『文化人類学』第69巻第3号、2004年、437-459頁
- 大杉高司「『信』のゆくえ」、『季刊民族学』通巻105号、2003年、53-63頁

- * 大杉高司『『主体』への回帰は成功するか：カリブ研究からの視点』、『人間・文化・心』通巻1号、1998年、113-136頁
- 大杉高司「カリブで観た『ピアノ・レッスン』——植民地的図式への揺さぶり』、『へるめす』通巻55号、1995年、177-90頁
- * 大杉高司「植民者のアイデンティティ：植民地下インドにおける境界の維持」『年報人間科学』14号、1993年、67-85頁

(c) 翻訳

- ストラザーン、マリリン『部分的つながり』、水声社、2015年、全349頁（原著：Strathern, Marilyn, *Partial Connections* Updated Edition、Ultamira Press、California、153 pages）
- ロバーツ、マイケル「ナショナリスト研究における情動と人」、『思想』823号、1993年、127-150頁（原著：Roberts, Michael、*Emotion and the Person in the Nationalist Studies*）

(d) その他

プロシーディングス

- 大杉高司「原油を地中に留めること：エクアドルのヤスニITTイニシアチブと人類学ノスケーリング」日本文化人類学会第53回大会、2019年、東北大学、https://store-confit.atlas.jp/jasca/jasca53rd/static/20190505104131654_ja.pdf
- 大杉高司、2016、「思想としての人類学を再考する：マリリン・ストラザーン著『部分的つながり』を介して」、日本文化人類学会第50回研究大会、2016、南山大学 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2016/0/2016_A12/_pdf
- 大杉高司、2016「知の再生と再配置がもたらす『新しさ』について：『部分的つながり』によせて」、日本文化人類学会第50回研究大会、2016年南山大学 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2016/0/2016_A17/_pdf

編集後記

- 大杉高司「編集後記」『文化人類学』70巻4号、2006年、579-580頁

B. 本研究科着任後の研究活動（着任2000年）

(a) 国内外学会発表

- * 大杉高司「Reverse Romanticism から逃れるために」筑波大学大学院人文社会研究科、内山田康教授記念講演会、2021. 3
- * 大杉高司「原油を地中に留めること—エクアドルの「ヤスニITTイニシアチブ」と人類学のスケーリング」、日本文化人類学会第53回研究大会、2019.6、東北大学川内キャンパス
- * Osugi, Takashi “Un diálogo entre la Economía Ecológica y la Antropología”, Panel: Iniciativa Yasuní ITT, 2019.3, Universidad Andina Simon Bolivar, Sede Ecuador
- * Osugi, Takashi “The Immanence of New “Socio-Natural” Contracts: An Anthropological Speculation Yasuní-ITT Initiative”, *Formas de Lo Humano XL*, 2019.3, Alianza Francesa, Cuenca Ecuador
- * 大杉高司「知の再生と再配置がもたらす『新しさ』について：『部分的つながり』によせて」、日本文化人類学会第50回研究大会、2016.05.29（査読通過2016.1.22）、南山大学
- * 大杉高司「思想としての人類学を再考する：マリリン・ストラザーン著『部分的つながり』を介して」、日本文化人類学会第50回研究大会、2016.05.29（査読通過2016.1.22）、南山大学
- * Osugi, Takashi “Comparative Reflexivities: Opening Remarks.” *International Symposium: Comparative Reflexivities*, 2014.11.15, Sano Shoim Hall, Hitotsubashi University

- Osugi, Takashi "Infinitely Open but Strictly Closed: A Post-Utopian Reflexivity in Cuban Experiments of Sustainable Agriculture." International Symposium: Comparative Reflexivities, 2014.11.15, Sano Shoin Hall, Hitotsubashi University
- 大杉高司、「ブラックボックスとエコ社会主義の再帰性：キューバ持続可能性農業の実験から」, 国際シンポジウム「複数の再帰性」科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」(23251022)、2014.1.11、一橋大学
- * 大杉高司、「ディスカッサント：Living with 3.11/the unexpected」the international workshop: Technology, Anthropology, Umbelt、2013.10.03、つくば国際会議場
- 大杉高司、「キューバ・エコロジー農業プロジェクトにおける〈中景〉のブラックボックス化（試論）」科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」(23251022) 研究会合、2012.12.25、一橋大学
- * 大杉高司、「石井美保〈『不浄』から『野生の聖』へー南インドのブータ祭司におけるヒエラルキー、憑依、環境ネットワーク〉に対するコメント」京都人類学研究会、2012.1.12、京都大学
- 大杉高司、「再帰性の複数性について：趣旨説明」科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」(23251022) 研究会合、2011.6.18、一橋大学
- * 大杉高司、「総合討論」、シンポジウム「共振する世界の対象化に向けてーグローバル研究の理論と実践」2010.05.15、成城大学
- * 大杉高司、「唯物論と物神崇拜：シックスト・ガストン＝アグエロという忘却の穴から」、大阪大学GCOEプログラム「コンフリクトの人文学」セミナー第42回、2010.2.12、大阪大学人間科学部
- 大杉高司、「エソテリック唯物論が解きあかすキューバ革命の〈近代〉」、第52回一橋人類学セミナー、2009.12.22、一橋大学
- * 大杉高司、「人類学批評の観点から：Karl Heider "Rethinking Emotion in the Ethnographic Film *Dead Birds*" へのコメント」、国際シンポジウム『人類学的表現の新地平をもとめてー映像とアートが紡ぐ記録と表現の新たな関係』、2009.12.15、慶応大学アート・センター
- * 大杉高司、「ポスト社会主義の〈アイロニー〉からキューバを眺めなおす」、国立民族学博物館機関研究『社会主義的近代化の経験に関する歴史人類学的研究』研究会合、2008.3.20、国立民族学博物館
- * 大杉高司、「提起再論〈ポストコロニアル論争は人類学の自殺行為に等しかった?〉」、日本文化人類学会関東地区研究懇談会、2007.10.7、一橋大学
- 大杉高司、「無・非・不のあとに、なおもネガティヴィティについてかんがえる」、成城大学民俗学研究所 2005-7 年度共同研究「『共同体』と『地域』という概念の再検討」第2回研究会、2005.12.10、成城大学民俗学研究所
- * 大杉高司、「映画『Intervista』をめぐる」、ポスト・ユートピア研究会主催シンポジウム「フィールドからのアプローチ」、2005 年度澁澤民族学振興基金民族学振興プロジェクト助成シンポジウム、大阪大学 21 世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」トランスナショナルリティ・セミナー共催、2005.10.29、大阪大学
- * Osugi, Takashi "When Orishas meet Dollars", Harvard-Yenching Seminar, 2005.5.20, Harvard-Yenching Institute
- * 大杉高司、「テーマセッション〈文化人類学から宗教を見る〉へのコメント」、宗教と社会学会第12回学術大会、2004.6.13、大阪大学
- * 大杉高司、「表象と代理の『あいだ』：現代キューバにおける経済と宗教の縫れ合いをめぐる」、科学研究費補助金特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的総合領域の構築」貨幣資源班、第四回研究会、2003.11.22、大阪大学
- * Osugi, Takashi "Materialization of Orishas: or Marx among the Cubans in the Special Period", 5th Cuban Research Institute Conference on Cuban and Cuban-American Studies, 2003.10.30, Cuban Research Institute, Florida International

University

* 大杉高司、「社会主義のキューバで『信じる』ということ」、早稲田文化人類学会第6回研究集会、2003.6.28、早稲田大学

(b) 国内研究プロジェクト

科学研究費補助金、基盤研究C、課題番号 18K001187 「『持続可能性』の彫琢：エクアドル、ボリビア、コロンビアの比較研究」（研究代表者）、日本学術振興会 2018 年～継続中

科学研究費補助金、基盤研究A、課題番号 23251022 「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」（研究代表者）、日本学術振興会、2011.4.1-2015.3.31

一橋大学大学院社会学研究科、先端課題研究 1 1 「脱／文脈化を思考する」2011-13

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業、「成城大学グローバル研究センター」（研究分担者）、成城大学、2008-2011

「『共同体』と『地域』という概念の再検討」、成城大学民俗学研究所、2005.4.1-2007.3.31

科学研究費補助金、若手研究B、課題番号 13710185 「現代キューバにおける経済状況とサンテリア信仰再活性化の相互連関についての研究」（研究代表者）、日本学術振興会、2001.4.1-2003.3.31

(c) 国際研究プロジェクト

Osugi, Takashi and Carlos Larrea “Un diálogo entre la Economía Ecológica y la Antropología”, Universidad Andina Simon Bolivar, Sede Ecuador. 2019-

Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar Program, “An Anthropological Study of the Genealogy of the Twin Concepts ‘Materiality/Spirituality’ in Modern Cuban Politics and Religion.”（研究代表者）、Harvard-Yenching Institute, 2004.10.-2005.8.

(d) 研究会、シンポ等のオーガナイズ

The Conference Inviting Dr. Frédéric Keck: On "Avian Reservoirs" and Covid-19, Hitotsubashi Anthropology Seminar, 2020.3
「思想としての人類学を再考する：マリリン・ストラザーン著『部分的つながり』を介して」、日本文化人類学会第50回研究大会、分科会、2016.5

”International Symposium: Comparative Reflexivities”, Sano Shoin Hall, Hitotsubashi University, 2014.11.（科学研究費補助助成事業、基盤研究A、「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」（23251022）の総括シンポジウム）

国際シンポジウム「複数の再帰性 Multiple Reflexivities」科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」（23251022）、一橋大学、2014.1、

科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」（23251022）研究会合、一橋大学、2012.12

科学研究費助成事業「『再帰的』思考と実践の多様性に関する人類学的研究」（23251022）研究会合、一橋大学、2011.6.18、

「未知の知をひめた古典」関東地区研究懇談会、特別連続企画講演（全5回）、2004-2005年度

6. 学内行政

(B) 学内委員会

社会学研究科改組WG、2020年度

大学院教育専門委員、2015-2016 年度
国際学生寮指導主事、2010-2011 年度
社会学研究科紀要編集委員 2005—2007 年度、2017-2018 年度

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

成城大学大学院文学研究科、日本常民文化専攻、博士前期課程および博士後期課程、「文化人類学研究」2003 年 10 月-2004 年 3 月
近畿大学文芸学部、商経学部、「文化人類学」、「比較文化学特講」1998 年度

(b) 所属学会および学術活動

日本文化人類学会：学会誌編集委員（2004-2005 年度）、関東地区研究懇談会運営委員（2004-2005 年度）、評議員（2006-2007 年度、2014-2015 年度、2016—2017 年度、2019-2020 年度）
American Anthropological Association 2010-

(c) 公開講座・市民講座

一橋大学公開市民講座（講義および運営担当）2011-2012 年度

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

サルジオ学院高等学校、模擬授業、「社会人類学講義：価値ってなんだろうか？」2010 年 11 月

(e) その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

日本学術振興会、科学研究費助成事業、審査委員（公開済み）
文化人類学学科、文化人類学・民俗学細目 2015 年度、2016 年度、
挑戦的研究部会第 4 小委員会 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野 2018 年度
渋澤民族学振興基金 渋澤賞選考委員会委員、2017-2018 年度